

千客万来

第 29 号

平成 22 年 3 月 1 日発行

花澤ぶどう研究所

<http://www.setogiants.com>

1 ごあいさつ

2月も半ば過ぎとなりましたが、皆様には益々ご清栄の事とお喜び申し上げます。

昨年も「花澤のぶどう」をお求めいただき、大変ありがとうございました。ただ、不況を思い知らされた現状ですが、今シーズンまでには、明るさが少しでも戻ってくるようにと願わざにはおれません。

ともあれ、今年も美味しいぶどうが実り、皆様にお届けできますようにと念じつつ、作業が始まっています。どうぞ本年も変わりませず、よろしくお願ひ申し上げます。

2 昨年の様子

前号のお便りをお届けする7月上旬頃迄は、天候に恵まれて、予想以上に高品質なぶどうの収穫が予想され、スタッフ共々喜んでおりました。

しかし、7月下旬から8月中旬までの成熟直前の長雨。梅雨明けがない今まで収穫期を迎えてしまい、我が家のがぶどうも少々打撃を受け、約20%減の出荷量となりました。西日本各地のぶどう農家でも、品質、収量の低下が問題となりました。

そんな中で、ご注文頂いた皆様からは、有難いお言葉や、励ましのお便りを頂いて、「瀬戸ジャイアンツ」は品不足になる程で、10月末には発送終了となりました。



出荷作業

また、最近多発している異常気象。それに基づく災害への対応には、少なからず課題が残ります。人とぶどうの協調、自然との調和。これは、永遠の課題でしょうか？

3 「瀬戸ジャイアンツ」が世界に

日本の果物は世界一。美味で整った外観は芸術的と、海外では高い評価を得ています。

果物は太陽エネルギーの貯蔵庫と言われて、生育期間に雨が少なく多日照、一日の最高気温と最低気温の温度差が大きい地帯が適地です。広大な地中海沿岸、ヨーロッパやシルクロード、北米カリフォルニア、南米チリやアルゼンチン等は、美味しい果物の産地で有名です。

日本は梅雨や熱帯夜があり、病害虫の発生が多く、作り難い国とされています。しかし精密な栽培技術や高い育種力で、優れた新品種を続々と育て、今や高級さでは世界一となりました。

そんな中で、ぶどうは世界各地で広く作られ、数千品種～1万品種もあると言われ、醸造用（ワイン）干果用（干しぶどう）、テーブル用（生食用）に分けられています。



瀬戸ジャイアンツ

「瀬戸ジャイアンツ」は種無し化が容易で、粒も大きく、皮ごと食べられ、とても美味しいと、欧米人・東洋人のどちらからも絶賛されるようになってきています。イタリアを始め中国、韓国、ドバイ、イラン、イラク、トルコ等からも、ご来園や栽培指導の問い合わせなどを受けました。



トルコからの訪問者

リンゴ（富士）と同様に、世界にはばたく夢が、一步ずつ現実味をおびて来ているのでしょうか。

世界中の消費者に自慢できるようなぶどうに育て上げなければと、一層の研鑽に励む覚悟です。

4 収穫後から冬に向けての管理

①病害虫の防除（10月末～11月中旬）

収穫が終わり果実がなくなれば、農薬による防除は気楽に出来ます。収穫の終了したハウスから順番に、全園を殺菌殺虫剤で厳重に消毒しました。

10月18日～25日 場所：ぶどうハウス全園

使用農薬名：スプラサイドとトリフミンの混合液

②礼肥

毎年10月上旬に、畜産農家黒瀬牧場から特製完熟堆肥を4トン搬入。木の株元を中心に施しました。葉色が僅かに蘇り、光合成が促進されます。



搬入された堆肥

③摘葉（強制的に）

暖秋化は自然の紅葉も遅らせます。紅葉期には、葉に含まれる養分が小枝から太い枝そして幹根へと還流し、役目を終えると落葉します。

ぶどうも同じですが、ハウスでは年末が近づいても

落葉しにくく、剪定作業が近づいても落葉しない場合は、休眠深化に支障を来します。翌年の発芽の時期も遅れたり揃わなかったりします。

そのため、12月1日から20日にかけて、強制的に残っていた葉をもぎ取りました。その葉は堆肥にしています。

5 新年から発芽に向けての管理

①整枝剪定

前年12月下旬、立ち木果樹（桃・李・梨・リンゴ・梅・琵琶・蜜柑）等の整枝剪定を終えました。ぶどうは1月4日から始めて約3週間（友人の応援もあり）で全園を終了。

スタッフの方々の鋏の音が心地よく響き、要領よく剪定が進み感謝しました。切り口が大きい部分は、乾燥や枯れこみ防止のためトップシンペーストを塗布しました。



整枝剪定作業

②剪定した枝の始末

剪定した枝は、チッパーで破碎し、堆肥にしました。太くて機械にかかる枝は、第2ハウス（江尻）隣家の田で焼却させていただきました。



チッパーでの破碎作業

③3号ハウス内張り（2月5日～9日）

発芽後の仕事の重複を避けるため、少しでも早く発芽を促せたらと二重にフィルムを張りました。小銭機械さんと主人の教え子さんの手助けで、手際よく出来ました。

2月10日現在、日中の最高気温32℃となり、夜間の最低気温は3℃。こうなると3号ハウスだけは、温度管理が大変です。3月下旬発芽予想。収穫は8月中旬頃を想定しています。

④園地の清掃、樹の皮剥ぎ

越冬する病気や害虫を少なくするためにこれらの作業を行います。

*作業に使用する器具や用具の整頓

*落葉・小枝・ごみ等の始末

*害虫防除補殺—古い皮が浮き上がりその裏側が病害虫の越冬隠れ場所になりやすいため除皮し、焼却します。全樹が対象です。

*減農薬栽培には欠かせない作業です。あまり気温の低い時は止めて、内張りをしたハウスから始め、今まだ自宅ハウスの半分ほど終了。

⑤業者に依頼していること

*水害を軽減するため、排水路（自宅1号ハウス周辺、延約70m）の補強。

*江戸ハウスのフィルムの張替え

6 トピックス

①学習会

*ぶどうづくり3年目を迎えた若いスタッフの方々。ミーティングと経験を積み重ね、ぶどうの生育する習性や管理の目的や方法など、その理由・必要性・科学的知識・技術などが理解され、納得出来るようになります。



スタッフの方々と共に

*2月22日には有名な無農薬りんご栽培者秋元義則先生の講演を全員聴講しました。

②研修者ご来園

国内では、大分・福岡・愛媛・徳島・鳥取・兵庫から、そして国外では、中国、アブダビ、トルコ等、生産者・学者・行政関係者などのぶどうに関心が高い方々がみました。



中国からの訪問者

③苗木育成準備

剪定時に接穗を選んで採取しました。農業試験センターから台木も仕入れました。フラン台木と3309号を用意しました。3309号は準歪化性で、結実の安定が早いと言われています。フラン台は喬木化し瘦せ地向きとされています。

7 おわりに

お便りを発送出来ますことを感謝しつつ原稿を打ちました。15年目になります。二人とも後期高齢者となり、よちよち歩きになりました。でも、我が家のがぶどうを求めて下さる皆さん、ぶどう生産者仲間、スタッフの方々、陰に陽に励まして下さる友人知人に背中を押されて頑張っています。

勿論「親父の好きなようにさせてあげればいいが！」と、私を叱咤激励してくれた二人の息子達家族に感謝しつつ、この1年を頑張ります。（花澤睦子）



成人式の孫と共に

睦子

茂